

宮崎の神話力

上野誠

はじめに

都市間競争の時代・・・欧州で／パスポート提示／両替／都市の魅力／京都の魅力・・・「白塗り」と「ぶぶづけ」／博多の魅力・・・

ラーメン／B級グルメ決戦／人の魅力／美人の魅力／語りの魅力／

神話の魅力／宮崎に行かなくては神話はわからないよ／語り部とな

るために／まず、神話とは

川端康成の「よみゆら」の旅

古事記から読み取る

一、神話とは何か

□ 私が私であるのは、私に関わる物語があるからだ／生きる力

□ 日本人と位牌・・・先祖の物語／先祖と自己との繋がりを証明

するもの

表

京都
東北系
鎌倉系
宮崎系

□ 神話の力、物語の力・・・歴史と物語の分離／それは近代的実証主義

□ 集団や地域、氏族のアイデンティティ・・・それは物語として語られる

□ 神話の社会的機能・・・なぜ、私たちはここにいるのかを説明する物語

□ 国家のアイデンティティ／神話が顕彰された時代／否定した時代

代

川端 ↓ 死の予感

原点を見つ

死にたい

二、光の国、日向

死者の国・黄泉国（よもつくに）・・・穢れ・暗・女・醜い／黄泉国

と繋がる出雲／日向（ひむか）は生者の国・・・清らか・明・男・

美しい／みぞきの聖地の橋／日に向かう生き方とは・・・太陽に向

かう生き方／太陽に向かって旅をはじめるところ／旅をはじめると

とは・・・明日を信じる生き方／おてんとうさまが見ている・・・

矜持を持って生きる／死者の国からたどり着いた生者の国／ここか

ら、旅ははじまる・・・天津日子番能邇々芸命（あまつひこほのに

にぎのみこと)の神話へ/神武天皇の神話へ

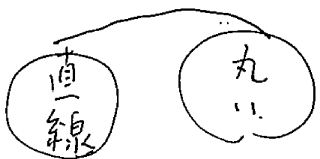
二、天孫降臨の聖地

故(かれ)爾(しか)くして、天津日子番能邇々芸命(あまつひこほの)にぎのみこと)に詔(のりたま)ひて、天(あめ)の石位(いはくら)を離れ、天の八重(やへ)のたな雲(ぐも)を押し分けて、いつのちわきちわきて、天の浮橋に、うきじまり、そりたして、笠紫(つくし)の日向(ひむか)の高千穂の久士布流多氣(くじふるたけ)に天降(あまくだ)り坐(ま)しき。故(かれ)爾(しか)くして、天忍日命(あめのおしひのみこと)・天津久米命(あまつくめの)の二人、天の石鞞(いはゆき)を取り負ひ、頭椎(かぶつち)の大刀(たち)を取り佩(は)き、天のはじ弓を取り持ち、天の真鹿兎矢(まかこや)を手挟(たばさ)み、御前(みさき)に立ちて仕(奉)りき。故(かれ)、其の天忍日命(あめのおしひのみこと)、〔此(こ)は、大伴連等(おほとものむらじら)が祖(おや)ぞ〕。天津久米命(あまつくめの)のみこと、〔此(こ)は、久米直等(くめのあたひら)が祖(おや)ぞ〕。

裏表

う定年とく生↓再生の地

時間



川端は夕日を見えたるため

三、朝日と夕日で讃えられる国

是(こ)に、詔(のりたま)はく、「此地(こ)は、韓国(か)らくに)に向ひ、笠沙(かささ)の御前(みさき)を真来通(まきとほ)りて、朝日の直刺(たださ)す国、夕日(ゆふひ)の日照(ひで)る国ぞ。故(かれ)、此地(こ)は、甚(いと)吉(よ)き地(ところ)と、詔(のりたま)ひて、底津石根(そこついはね)に宮柱(みやばしら)ふとしり、高天原(たかあまのはら)に氷椽(ひぎ)たかしりて坐(いま)しき。

『古事記』上巻

朝日の直刺す国、夕日の日照る国・・・最高の場所/聖地・ひむか日本神話のメッセージ・・・皇祖はここに天降つたのだ/ここから出発するのだという明確なメッセージ/それは神話・・・真偽ではなく、信ずるか信じないか/太陽に向かう生き方を日本神話は示している/日本に生きる人びとへのメッセージ/おてんとうさまが見ている・・・二十三億円の怪ないし快/生きて今ある/今、ここに